

## TS（トータル・サティスファクション）を目指して③⑧

### 「中古車販売業者」問題に見えるもの？

校長室担当より

この夏は、ほぼ毎日のようにある中古車販売業者の話題で持ちきりでした。この会社の様子を知るにつれて、次のような実験が思い浮かびました。

イエール大学の心理学者スタンリー・ミルグラム博士が行った、「服従」に関する実験です。有名なので知っておられる方は多いと思います。まず被験者は教師役をあてがわれます。そして、隣の部屋にいる生徒役（演技をします）が問題を間違えたら電気ショックを与えるように命令者（権威者として演技します）から指示されます。生徒役は、演技で電気ショックを受けるたびにうめき声をあげます。教師役の被験者は、生徒が問題をまちがえるたびに電流のボルト数を上げるように命令者（権威者）から指示されています。演技をする生徒役のうめき声は、流される電流のボルト数に応じて大きくなり、途中で「実は心臓に病気があるから止めてください」と懇願する設定です。普通の人なら、「ああ、それなら止めよう」と思うはずですが、この実験により、浮き彫りになったのは、恐ろしい人間心理でした。教師役である被験者の約 65%は、生徒役が命を失うからと、どれほど懇願しても、電気ショックを与えるのをやめなかったのです。ミルグラムは、この「服従実験」により、半数以上の人は、命令者（権威者）がいるだけで倫理的に問題のある行為を行い、最後まで命令に従うこと、人の良心は状況によって無力になることを証明してみせたのです。これを「ミルグラム効果」と呼びます。

この実験において、被験者が倫理的に問題のある行動をとった理由と推測される心理的要因として、権威者への従順性があげられます。役職、高度な技術や専門性、カリスマ性等により組織内のヒエラルキーやなんらかの権威性が強く明確である場合、上位の人物が下位の人物に対して出した命令に対して、従順に従ってしまうことは、今話題になっているような会社に限ったことではなく、日常の場面でも起きることがよくありますよね。

「ミルグラム効果」に陥ることを避けるためには、個人の意識を高めていく必要があります。「人間としてこれだけは絶対にしない。」といった自分の価値観を普段から明確にし、常にそれに従って行動することが大切です。世界にはいろいろな国がありますが、日本というこの国では、これが命を失う危険もなく保証されていることは幸せなことですね。権威的な人物からの命令に対しても、自己の判断力を持ち、自分の人間としての価値観に従って、これから外れ

た命令があった場合には、問題を提起する勇気を持つことを忘れないでいたいものです。

もうひとつ、大切なことを感じました。それは上位に立つ者としての意識です。私たち教員は児童生徒の目線からは、どうしても上位的立場に映っています。今回お伝えしたミルグラム実験では、命令者（権威者）の姿が見えませんが、こうした上位的な立場にいる人物に求められるのは、「お手本（model）」としての人間的な魅力です。簡単に言えば、立場や役職、技術や専門性を超えて、「自分もあんな人間になりたい」と誰もが感じられる人間であることが必要なのです。お手本になる人は、多くの人々が共通して求める何らかの「人間的な価値」を必ず体現しています。いくら職業上の専門性に秀でていても、その立ち居振る舞いに社会性が欠けていたり、人を平気で犠牲にするようであれば、「あの人のようになりたい。」と子どもたちを含め多くの人は望まないでしょう。子どもたちは人を見抜く力が本当に鋭い。だからこそ、常に「人間としてのお手本」としての生き方を追求していく姿勢が私たちには求められるのです。それは、子どもの前に立つすべての人間の責任だと思います。私自身も弱い、ちっちゃい「もうひとりの自分」が出てくるたびに、これと戦いながらの日々ですが、皆で負けずにいい学校、いい社会を創りましょう、一緒に。（令和5年8月28日）